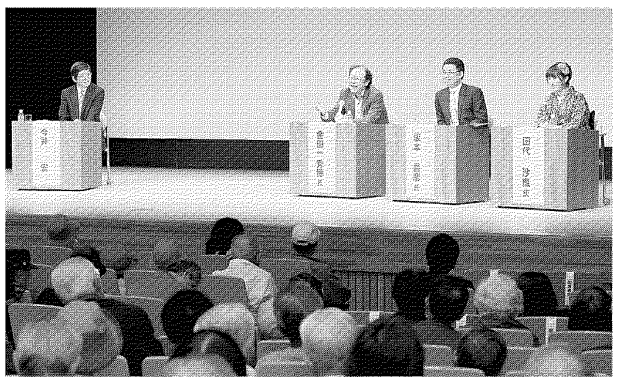
第3種郵便物認可　北海道新聞　2011年（平成23年）11月11日（金曜日）　企画　20

漢字の力 再認識

札幌でシンポ

日本語の持つ魅力や、コミュニケーションなどについて考える「漢字の力」シンポジウム（日本漢字能力検定協会、北海道新聞社主催）が3日、札幌市中央区の道新ホールで開かれた。祖父・京助氏、父・春彦氏と3代続けて日本語研究を専門にしてきた杏林大外国語学部教授の金田一秀穂さんが「心地よい日本語のための漢字の役目」と題して基調講演。金田一さんと、北海道ネイチャーセンター社長で然別湖でエコツーリズム活動を続ける坂本昌彦さん、落語家を父に持つタレントで漢字検定準1級を取得した田代沙織さんの3人が「次代へつなぐ漢字の力」をテーマに、それぞれの体験をもとに語り合った。シンポジウムの内容を紹介する。

（コーディネーターは北海道新聞・今井宏編集委員）



日本語や漢字について議論したパネルディスカッション

今井　まず好きな漢字を挙げてください。

金田一　あえて言うと「一」。最初にできた文字だと思うから。

坂本　エコツーリズムに携わっている関係で「清」。水を大切にしたいとの思いと、心が清いという両方の意味で好きだ。

田代　稽古の「稽」。訓読みで、考える、とどめるという意味がある。単なる練習ではなく、頭で考え、とどめるというので好き。

今井　「国語に関する世論調査」で「ら抜き言葉」を使う人が増えているとの結果が発表された。特に北海道で多い。「着られる」ではなく、「着れる」など、どう思うか。

金田一　言葉は単なる道具。分かりやすい、つまり心地よければいい。ら抜き言葉は北海道方言なんだと思えば良い。最近は「れ足す言葉」といって「行けれる」などと言う人もいる。言葉は常に変化するものだ。

坂本　ホテルで働いているが、従業員の言葉遣いについて「おかしい」と言われることがある。謙譲語や尊敬語の使い方が分からない人が多い。大学の非常勤講師も務めているが、学生にリポートを書かせても書き言葉と話し言葉の区別がなかったりする。サービス業では、できるだけ良い言葉遣いをするのが最大のサービスだ。

田代　学生時代、アルバイト先の先輩が接客で「ご注文よろしかったでしょうか」など（過去形の）変な言葉を使っていた。最近の女子高生は「すごくいい」ことを「やばい」という。言葉は生き物だが、近い世代としてモヤモヤ感はある。

今井　バイト敬語では「こちらコーヒーになります」もよく例に挙げられる。

金田一　若者の言葉が乱れていると言われるが、団塊の世代はそう批判はできないはず。本来は悪い時に使う「すごい」「ひどい」を肯定的な意味で使い始めたのは彼らだ。ところで、道内のホテルでは、北海道弁で接客した方が北海道に来たと感じてもらえるのではないか。

坂本　北海道に来て、地場の食べ物を味わい、地元の言葉を聞くのは望ましいが、相手に意味が伝わらないと。従業員が宿泊客に「このごみを投げていいですか」と尋ねて騒動になったことがある。

今井　最近の赤ちゃん名前は読むのが難しい。例えば昨年人気No.1の「大翔」は読み方が8通りもある。

金田一　学生でも、男か女か分からない名前がある。漢字信仰があるから、読めない名前をつける親が増えているのではないか。音は勝手につけられるが、分かりにくい。

田代　友人に小学生の教師がいるが、「純粋」と書いて「ピュア」と読む児童がいると聞いた。個性があっていい面もあるが、やはり読める範囲がいい。

今井　言葉を覚えることと読み書きとの関連について聞かせてほしい。

金田一　まずは言葉を知らないと話にならない。言葉を知ることで、世界が変わってくる。とにかく、いろいろな言葉を知ってほしい。語彙を豊かにしてほしい。外国語上達のカギは、日本語をよく理解することだ。また、方言も大事。「なまら」という言葉は、「とても」とか、「大変」という言葉とは意味が微妙に違う。「なまら、うめえ」って聞くと、ヨダレが出てきそうになる。まさに、言葉の持つ力。語彙を増やすために、漢字を知ることは実に有効だ。

坂本　仕事上、企画書や資料を作ることが多い。多くの言葉を書くと、相手に理解してもらいにくくなる。短い文章で、趣旨を理解してもらうには、ボキャブラリーが肝心だ。言葉を知らないと、適切な表現ができない。そして、カタカナより、漢字で訴えた方がわかりやすい。漢字は短い文章に説得力を与える。部下には「いろんな本を読んで言葉を覚えろ」と指導している。私は5年前から毎日、ブログを書いている。発信することで、表現に自信が持てるようになった。

今井　読み書きには漢字力が必要。田代さんが漢字検定を取得しようとした理由は。

田代　クイズ番組に出演したいという下心から。でも、落語家の家に生まれ、日本語に興味があったというのも事実。準1級は3回目で合格したが、勉強によって語彙は確実に増えた。

今井　昨年11月、常用漢字が2136文字に増えた。「すべて書ける必要はない」と文化庁は言っているが、国語嫌いが増えるとの心配もある。

金田一　あくまで指針。「難しいものは偉い」という感覚が日本人の中にある。権威がない人間ほど、難しい漢字で権威づけたいと願うものだ。言葉は道具なのだから、権威を付与して「神の言葉」に祭り上げてはいけない。言葉は私たちのもの。気持ちの良い言葉を使えばいいのだ。

坂本　エコツーリズムの立場からすると、動物や植物の名前は漢字表記より、カタカナの方がよい。ビジネスでは、伝わる力によって、漢字かひらがなかカタカナかを判断するしかない。

今井　3種の文字を使う日本語は外国人にとって難しいのでは。

金田一　漢字使用国とそうではない国と分けて考える必要がある。漢字使用国の学生は、読めないけど意味が分かってしまう。日本語の文法は難しくない。発音はもっと楽。だから習得もしやすいはず。一方、欧米など、漢字を知らない国の人にとっては、漢字は絵画に近い。しかし、成り立ちは論理的だから、起源がわかれば、理解しやすい。日本語を指導していて心がけていたのは、日本語を面白がってくれる人を1人でも増やしたいということ。その国の言葉を理解する1人は、1本のミサイルより平和に役立つ。言葉の理解は国防に役立つ、というのが持論だ。

今井　坂本さんは、アジアの学生に観光ビジネスを教えている。漢字にまつわる話を。

坂本　台湾の三つの大学で集中講座を行っているが、漢字による筆談でほとんど、互いに理解できる。しかし、日本で作られた漢字である国字については、台湾の学生もわからない。例えば「搾乳体験」。「搾」が国字なので意味がわからない。一方で「働」というのは国字なのに、意味はみんな知っていた。

今井　漢字には造語力がある。カタカナも外来語を訳すうえで欠かせない。

金田一　中国では翻訳できない言葉、例えばクリントン、オバマといった人名にどんな漢字を当てるか、新聞社などが考え、その後に統一表記を決める。日本語はカタカナがあるから、言葉の浸透スピードが根本的に異なる。スピード力で、カタカナは漢字を圧倒する。しかし、カタカナは、見ただけでは意味がよくわからない。だから「コンセンサス」「アセスメント」など、わかったようでよくわからない外来語が定着してしまう。

今井　「漢字の力」について、最後に一言。

田代　素晴らしい文化だ。漢検の勉強をしていて、「脆い」という漢字を知った。この漢字を書き、本当に「体」が「危険」な状態にあると「もろい」のだなとわかった。大切にしていきたい。

坂本　ひらがなだけだと文章は読みにくい。漢字を交ぜると読みやすくなる。外来語はカタカナで書く。日本は3種の文字を最も上手に使っている国だ。この財産を守り、後の世代につなげていくことが肝要だろう。

金田一　漢字が日本人の心を作り、身体を、頭を作っている。写経のような、文字を一つ一つ書き写すのは良い運動だ。この、書くという意味を、考え直す時期にきているのかもしれない。若い世代こそ、「手で書く意味」を考えてほしい。

今井　漢字の力を後世に伝える決意を共有した。長時間、ありがとうございました。

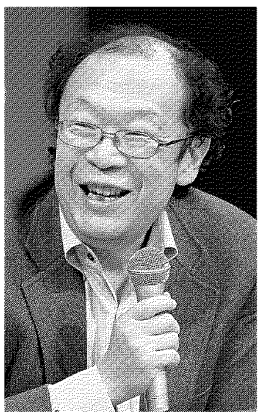
坂本昌彦さん

短い文章に説得力 金田一語彙が豊かになる 田代大切にしたい文化

たしろ・さおり　1984年東京生まれ。タレント。落語家桂歌春（かつら・うたはる）さんの長女。自らも落語ができるアイドルユニット「ラクドル」として芸能界で活躍。日本漢字能力検定準1級、銭湯検定4級など数多くの資格も取得。

金田一教授 基調講演

人間が生んだ便利な道具



あるクイズ番組で「国語の神様」と呼ばれたことがあるが、日本語の専門家だからと言って、必ずしも漢字が読めるわけではない。常用漢字レベルは読めないとちょっと困るが、難読漢字は読めなくてもよい。

世の中には読めない漢字がたくさんある。「大人300円、小人150円」の小人を何と読むか。「しょうじん」と読むと、つまらない人間の意味だから違う。この場合、読めないが、みんな子供の意味だと分かる。コンビニで売っている「白飯」も読めないが「白いご飯」のだから。

今はパソコンや携帯が普及し、「はかる」と打つと計、量、測などいろいろな漢字が出てくる。でも、それぞれの意味が分からないと正しい漢字は選べない。子供にとって漢字の意味を覚えることが大切な勉強になる。

戦後、「漢字をなくせ」という運動が起きた。しかし、漢字はなくすことはできない。目で見なくては分からない言葉がたくさんあるからだ。例えば「こうこう」は高校、後攻、孝行などたくさんある。漢字がなくなると同音だと一つか二つに語彙が減るだろう。逆に漢字があるから語彙を増やすことができる。

漢字は国際的な文字でもある。中国大陸や台湾などでは漢字を知っていれば、話せなくても意味を理解しあうことができる。人間が生んだ大きな成果である中国文明を深く理解することができる。

つまり、漢字は単語・語彙を増やし、考えを深め、日本語を分かりやすく伝え、世界へ連れて行ってくれる、そういう便利な道具なのだ。

きんだいち・ひでほ　1953年東京生まれ。上智大卒、東外大大学院で日本語学専攻。海外の大学で日本語教育に当たり、ハーバード大客員研究員などを経て杏林大教授（日本語）。祖父はアイヌ語研究で北海道とも縁の深い京助氏、父は春彦氏。

漢検　あなたも“漢検”はじめませんか？

申込受付中

《平成23年度 第3回検定日》平成24年1月29日(日)

申込方法

■インターネット・携帯電話で申し込む。
http://www.kanken.or.jp/
■コンビニエンスストアで申し込む。
ローソン「Loppi」、セブン-イレブン「マルチコピー」、ファミリーマート「Famiポート」、サークルKサンクス「カルワザステーション」から
締切日：12月22日（木）

■お近くの取扱書店で申し込む。
※ただし願書の協会必着日は12月22日（木）
締切日：12月19日（月）

黄色い表紙が「漢検」受検の定番です！

平成23年度検定対応書籍で学習しよう！

漢字学習ステップ　A5判／2級～8級［2色刷］、9級・10級［カラー］
【2級】定価1,260円（税込）
【準2級】～【4級】各定価1,050円（税込）
【5級】～【7級】各定価 945円（税込）
【8級】定価1,050円（税込）
【9級】・【10級】各定価1,260円（税込）

平成23年度版 漢検 過去問題集　A5判
【1／準1級】定価1,365円（税込）
【2級】定価1,260円（税込）
【準2級】・【3級】各定価1,155円（税込）
【4級】定価1,050円（税込）
【5級】～【10級】各定価 945円（税込）

※全国の書店でご購入いただけます。品切れの場合は店頭でのご注文によりお取り寄せください。

財団法人 日本漢字能力検定協会
本部 〒600-8585 京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町398
東京事務局 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビル
0120-509-315（無料）
お問い合わせ時間／月～金9:00～17:00（祝日・年末年始を除く）
漢検ホームページ http://www.kanken.or.jp/

Let's start!! 漢検

あなたは、すべて書けますか？

いつもよく使っているはずの言葉たち。
パソコンや携帯で変換すればすぐに出てくるのに、
いざ自分で書くとなると思い出せない…
学生の時は書けた漢字も、放っておくと忘れていく一方です。
「あれ!?」と思ったら、まずは漢検。
この機会に漢字力アップをめざしましょう。

(1) 笑うカドには福来たる。
カドの立つ表現を避ける。
(2) 自由をキョウジュして生きる。
大学キョウジュの職を辞した。
(3) 従来の方針をケンジした。
自己ケンジ欲が強い人だ。
(4) ユウキュウの大河を前にする。
ユウキュウ休暇を取って旅をした。
(5) 名作のボウトウの一節を暗唱する。
石油の価格がボウトウする。

(1)門／角　(2)享受／教授　(3)堅持／顕示　(4)悠久／有給　(5)冒頭／暴騰
※すべて漢検2級レベルの書き問題です。

※「漢字検定」「漢検」は登録商標です。

（C）北海道新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。